

ひがし労 東京

JR東労働組合 東京地本
発行人 関根 輝明
編集者 西沢 明男

9.18 さよなら原発

さよなら原発
1000人アクション
脱原発・持続可能で平和な社会をめざして



首都圏集会



9月18日、日比谷野外音楽堂で、18時から「9・18 さよなら原発 首都圏集会」が一年ぶりに開催された。コロナ禍にも拘らず、1,300名が参加した。

主催者挨拶に立った落合恵子さんは、原発事故から10年経っても、安倍政権は責任を取らなかった。と厳しく非難し、終わっていない事故を、安倍政権を引き継いだ菅政権に対して声を上げていこうと呼びかけました。集会では、原子力政策の行き詰まりが様々な場面で露呈する中、依然として国は原子力推進の立場を崩していません。27年もの歳月が経過した六ヶ所再処理工場の支援を継続しています。「エネルギー基本計画」による原子力政策・核燃料サイクルの転換を求め、脱原発の動きを加速させようと訴えました。

本で紹介 『アトミック・ボックス』池澤夏樹 KADOKAWA / 角川文庫 「父はかつて、原子爆弾製造に携わったのだ。」日本の原子力政策の黒幕政治家に若い女性大学講師が最後に対決。兎に角、面白い。

